

2012.7.18 京都M

認知症の人に優しく

洛陽工で講座 接し方学ぶ



認知症の人への接し方について話し合う生徒たち(京都市南区・洛陽工業高)

「認知症あんしんサポーター養成講座」が17日、京都市南区の洛陽工業高であった。生徒たちは自分が認知症になった場合を想定しながら、相手との接し方を学んだ。

地域に貢献できる生徒を育てようと、南区社会福祉協議会の協力を得て初めて開き、3年生26人が参加した。市唐橋地域包括支援センターの社会福祉士

から「認知症は病気」などと説明を受けた後、自分が認知症と診断されたら、と想定して「自分の存在価値が分からなくなる」「家族や友人には自分に関わってほしくない」など意見を述べた。続いて認知症の人との良い接し方と悪い接し方の例を映像で見て、「きつい口調で話してはだめ」「優しくほほ笑みかける」など気付いた点を挙げた。

西川公規君(17)は「学んだ接し方を今後の生活に生かしたい」と話していた。

(逸見祐介)